

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時35分）

---

○議長（土屋清武君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領良く行ってください。通告以外の質問はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け質疑を行ってください。

質疑は一括質疑と一問一答方式どちらかを述べてから質疑に入ってください。

それから、固有名詞等は発言に十分注意してください。

なお、本定例会において、町長に反問権を付与します。

最後に、傍聴者に申し上げます。議場内ではお静かにお願いします。

---

◎一般質問

○議長（土屋清武君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 藤 井 要 君

○議長（土屋清武君） 通告順位1番、藤井要君。

（5番 藤井 要君 登壇）

○5番（藤井 要君） 雨の中、皆さん、傍聴に来られてありがとうございます。皆さんにもこの雨にも負けないように質問したいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、壇上より一般質問を行います。

地球の環境が変り、世界各地で山火事、水害、猛暑と多くの災害が発生しています。日本でも今年は気象の変化により豪雨災害や猛暑、各地で頻発する地震など私たちの生活にも直結した影響が出てきています。最高気温40度も驚ろかなくなり熱帯夜の言葉も聞かなくなりました。このような気温の上昇の変化を受けて、県内の小中学校の教室にエアコンの設置をとの動きが出ていますが、松崎町ではクールネックによる保冷剤等を利用した対策を考えているとのことですが、子どもたちの健康管理、勉強に集中できる環境をつくるためには、小中学校にもっと強く言えば、高校にもエアコンを設置することが急務でないかと思い、今後

の設置に対する町の計画をお聞きします。これが学校施設整備に対する最初の質問であります。

次に、勤労者体育館、海洋センタープールの整備について質問します。勤労者体育館や海洋センタープールは近隣市町の住民も利用し、松崎のスポーツ振興に欠かせない場所となっていますが、両施設とも建築後数十年を経過し、設備も老朽化してきています。

町では、学校施設などのトイレの洋式化に取り組んでおりますが、両施設は洋式化が遅れており、利用者から改修を望む声が上がっています。そのうえ、体育館では床面が平らではなく波打ち、球技をするうえで危険性を感じ、改修への切実な希望も出ています。

また、利用者、父兄からもロッカーの改修も併せて望む声が上がっていますので、今後の施設整備についてどのように考えているのか伺います。

次に、少子化に対応した教育行政の対策についてであります。平成30年度の幼稚園の入園者7名に対し、聖和保育園は16名が入園しています。年々町の新生児の減少が続き、国の施策である保育料の無料化が来年10月より実施されると保育時間の長い施設に園児が集まってくるのではないかと思います。

以前、人口5000人を割った町の半数に幼稚園がないので、認定こども園も考えた施設をと発言したこともありますが、現在に至っております。

松崎幼稚園児35名、聖和保育園65名、うち3歳以上19名ですが、20数名の出生が続くことになれば、幼稚園、保育園のあり方にも影響が出てくるのではないかと心配しています。当町の今後の松崎幼稚園のあり方、方向性についてどのように考えているのか伺います。

次に、松崎高校についてです。松崎高校も定員割れ状況が続き、今年度の入学者は85名でした。地域の方々も地域の教育の核である松崎高校の今後に大きな関心を持って見つめています。

西豆の子は西豆で育てるを合言葉に連携型中高一貫教育を行い、また、賀茂地域広域連携会議においても高校のあり方を協議していると思いますが、明るい希望が見えてきません。

そこで、中高の連携型教育を小中高の一貫型教育連携に・・・、また、極端な例かもしれませんが、廃校寸前だった島根県の島前高校のように高校がなくなることの危機感から改善されたところもありますので、地域住民に安心感を与えてくれるような具体的対策、方向性を早く示していただければと思います。当町の考えをお聞かせください。

次に、買い物支援事業についてです。この問題については、6月定例議会において質問を

しています。8月で実証実験が終了し、その精査結果が出たと思いますので、公表願います。

また、その内容を検討し、今後の事業を継続か、中止するのか、判断するうえでの問題等があったのか、今後の事業実施に対する当局の考えを伺います。

これで壇上からの私の一般質問を終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 藤井議員の質問にお答えします。

まず、第1は、小中学校の教室にエアコンを設置する考えはないかということでございます。

本年は異常気象により猛暑日が続き、7月に愛知県において小学校1年生の児童が校外学習中に熱中症で死亡するという痛ましい事故が発生しており、熱中症事故防止のため万全の対策を講ずるよう、国から通知が出されております。

2017年調査による公立小中学校のエアコンの設置状況は、全国平均で49.6パーセント、静岡県は7.9パーセントで都道府県中39位の低位となっております。賀茂郡下では南伊豆町が今年度初めて3つの小学校の普通教室21室と南中小放課後児童クラブ室2室の23室に2920万円をかけてエアコンが整備されております。

エアコン整備には、多額の事業費がかかりますが、国も今回の状況を踏まえ財政措置を検討する考えを示しております。現在、小中学校には、旋回扇が設置されていますが、本年度、学校環境衛生基準も見直され、望ましい温度の基準が「17℃以上、28℃以下」となっていることから、児童・生徒が適温の中で授業を受けられる環境を整えることは、重要なことと認識しています。

今後は、学校、生徒、保護者等関係者の意見を伺いながら、効果的な整備計画を検討していきたいと考えております。

次に、勤労者体育館、海洋センターの老朽化、これについて今後の施設整備についてどのように考えるかというご質問でございます。

勤労者体育センターは、昭和58年3月に、松崎海洋センターは、昭和60年5月に、町民のスポーツの振興と健全な心身の育成を目的にオープンしたもので、いずれの施設も30数年が経過し、老朽化が進み、修繕箇所が増えてきています。

トイレの洋式化につきましては、小中学校は、平成28年度より改修を進めておりますが、

社会体育施設や観光施設などは、まだまだ洋式化が進んでいないのが現状で、現在、勤労者体育センターや海洋センターは、男女とも和式トイレしかありません。

トイレの整備には、事業費や設置スペース等の問題もありますので、一度に全てを行うことはできませんが、避難所となっている勤労者体育センターは早めの対応を考えてまいりたいと思います。

また、ロッカーや床面の改修など社会体育施設の整備については、現状を確認し、優先順位をつけて対応してまいりたいと思いますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

次に、少子化対応の行政の対応についてであります。国の施策である保育料の無償化が始まると幼稚園の入園者が減少することも考えられる。今後の幼稚園のあり方、方向性について伺いますというご質問でございます。

国は、すべての子どもに質の高い幼児教育を保障するため、幼児教育・保育の無償化について、当初2020年から本格実施予定だったものを2019年10月に前倒ししてスタートすることにしています。

無償化の内容は、認可保育サービスや幼稚園、認定こども園では、0～2歳児は住民税非課税世帯、3～5歳児は全世帯が対象となり、認可外保育サービスも上限があるものの補助されるものです。

現在、松崎幼稚園には3～5歳児が35人、聖和保育園には0～5歳児が70人在園しておりますが、少子化の影響で平成29年度に21人の出生しかなかったことから、今後も入園者の減少が続くと考えられます。

無償化による影響につきましては、保育園は「松崎町保育の必要性の認定基準に関する条例」により、認定基準が定められていることや、園の定員、保護者の皆さまの考え方などもあることから、必ずしもすべての子どもが保育園に入園ということにはならないかと思えます。

松崎幼稚園も聖和保育園も園舎が新築され、数年しかたっておらず、両園がバランス良く運営できることが望ましいことと思えますので、保護者が松崎幼稚園に何を求めているのかを的確に把握し、幼稚園の魅力を高めるべく対応してまいりたいと考えております。

次の藤井議員からのご質問につきまして、松崎高校のあり方ですが、教育長からお答えしたいと思います。

○教育長（佐藤みつほ君） それでは、藤井要議員の松崎高校存続の件とかいろいろ入学者数のことについての質問にお答えします。

賀茂地域広域連携会議の取り組み状況につきましては、8月10日開催の議会全員協議会でご説明させていただきましたとおり、教育部門では平成30年度の重点取組項目として、高校の魅力化、大学との連携推進、幼児教育アドバイザーの設置について協議しております。

特に、ご質問の高校のあり方については、賀茂地域学校魅力化推進協議会を設立し、賀茂地域全体の高校のあり方を議論することとしています。また、これとは別に松崎高校、稲取高校の2校は、高校存続に向けた地域との連携による教育の向上の議論を、下田高校南伊豆分校は、教育内容のあり方と学力的な需要も含めて議論を行い、全体協議会に報告することとなっております。

まずは個別の高校で議論を進めるということで、7月5日に県立稲取高校魅力化推進協議会、7月12日に県立下田高南伊豆分校魅力化推進協議会がそれぞれ開催され、松崎高校につきましては、平成20年度に松崎町、西伊豆町、小中学校、松崎高校関係者などで設立した西豆地域教育研究協議会の中で毎年協議を重ね、松崎高校の魅力化に向けた事業を展開しております。

特に今年度からは、生徒が「やりたいこと」を見つけられる学校に転換し、地域の良さを学び、コミュニティを支える人材を育成するよう努めております。

現時点では、まだ全体協議会で議論がされておられませんので、具体的な方向性が決定しているわけではございません。今後、進展がありましたら、議会全員協議会などの機会をとらえて報告してまいりたいと思います。以上です。

○町長（長嶋精一君） 引き続き藤井議員の質問にお答えします。

3. 暮らし・環境についてでございます。買物支援事業について、状況によっては見直し、修正も必要ではないか、今後の実施に向けた考えを伺いますという質問でございます。

買物等支援事業は、当初、利用者がどのくらいあるのか不透明なところがあったため、4月から実証実験としてスタートし、7月までの利用実績を踏まえて検証を行い、今後の事業継続の有無を判断することとしていました。

本事業の検証については、8月に内部協議を行ったところですが、7月末現在の利用登録者数は243人で、7月までの利用実績は261件、運行費の総額は39万8190円で利用者負担額を差し引いた町補てん額は26万7690円となっております。

地区別の利用者数は松崎地区105人、中川地区100人、岩科地区65人、三浦地区41人となっています。

内容をさらに分析すると、登録者数については松崎地区の方の登録が全体の4割を占め、対象者別では75歳以上の方がほとんどを占めています。

利用実績については、1か月当たり65件、1件当たりの運行費総額は1525円、1人当たりの最高利用回数は5月の16回となっており、目的別では通院が一番多く、次に買物の順になっています。

検証結果としては、利用者登録や利用件数も徐々に伸びてきていて事業効果が町民の皆さんに浸透してきていることや、当初の目的である「日常生活に必要な買物等に不自由をされている方」の支援につながっているという評価となりました。

また、本事業の委託先の運転手に聞いたところ、利用者からの評判は良く、「本当に助かっている」との声が多いことから、今後も本事業を継続していきたいと考えております。

以上、藤井議員の質問にお答えいたしました。

○5番（藤井 要君） それでは、一問一答でお願いいたします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○5番（藤井 要君） エアコンの関係ですけれども、今までの30度から28度に適正温度というようなことで、変更になりました、日本全国いろいろ設置の動きがあると・・・、特に県下でもほとんどの市町で来年に向けて設置の動きがありますよね。本当に上げればきりがないほど・・・、ここに私も持っておりますけれども、場合によっては、何十億・・・、20億とかそういう金額もかかります。それは70教室ですか、いろいろそういうのはありますけれども、松崎に対象なるというような教室の数はだいたいどのくらいと把握しているのかお聞きしますけれども・・・。

○教育委員会事務局長（山本 公君） 教室の数というご質問でございますので、ご回答をさせていただきますと思います。小学校、中学校の普通教室、通常授業を行っている教室、これが合わせて20です。

小学校が13、中学校が7の20です。それ以外に特別教室として理科とか、音楽とか、図工とか、図書室とか、視聴覚室とか、そういうものがございまして、それが小学校で6、中学校で16ということで、普通教室、特別教室を合わせて計42室になります。以上です。

○5番（藤井 要君） 私も新聞等で見ますと、南伊豆さんは案外単価的には安かったと思う

んですけども、ほかのところを比べますと、国だと1㎡について2万円以上ですよ。基準が・・・。

でも、特別室なんかを入れると3万円から4万円、へたをすると特別室なんて・・・、広さが違うということで1㎡あたり4万円かかるということで、松崎の例を伺いますと、なんか小学校の方が広くて68㎡、中学は64.8ということで、これは普通だけですけれどもね。

そうすると、70㎡としても例えば4万円だとすると280万円、約300万円位かかるとして、普通からいくと1億2000万円位かかっちゃうんですよ。

私は、そのくらいだったらなんとか、ほかのところはいろいろ来年の夏までにとか、6月までにとか、いろいろあるわけですよ。

町長の頭の中ではここに襟巻じゃないんですけども、クールのやつで冷やして、保冷剤か何かを入れてやるというようなことも言っていましたけれどもね。

先ほどの話の中では、父兄の方とかといろいろ相談してとっておりますけれども、時代の流れとってはおかしいかもしれませんけれども、先ほど言いました子どもたちの健康とか、そういうことを考えて、早くやるべきじゃないかと・・・。

そして、もし来年皆さんが・・・、県内でもそうですけれども、これをやるとものすごい数になるわけですよ。例えば、申し込みの・・・、設置が間に合うかなんてことだって考えてくるわけですよ。これは、私がさっき言った3万円とかの関係で、1億2000～3000万円ということになりまして、これは簡単な計算であやふやな計算ですけども、そういうところを当局の方はどのくらいをみたり・・・、例えば、中学は・・・、私も聞いておりますけれども、小学校・・・、今年の7月、8月、9月はまだあれですけども、だいたい28度以上の温度が出たというような日は何日くらいあるのかというのも把握していますか。

○教育委員会事務局長（山本 公君） 今年につきましては、非常に暑い日が多く続いておりまして、かなり熱中症が発生しているというようなことでございます。

学校として毎日毎日温度を全てデータ的にとっている部分は実際ところないわけでございますけれども、夏休み前に中学校の方で取った記録によりますと、1年生の教室、3階になりますけれども、それがだいたい33度～34度位、朝の温度です。

7月18日から7月23日までの4日間確認させていただきました温度が、33度～34度というような温度でした。

それから、3年生、1階になりますけれども、そちらの1階の教室ですと、30度位という

ことです。

また、学校が始まってから、8月29日から9月3日までという中での温度が、やはり33度、30度というような温度の状況でございます。

また、松崎小学校の方も少し確認をさせていただきましたけれども、高いところで34度、33度という状況がみられたわけでございますので、30度は超えているという状況でございます。

○5番（藤井 要君） 町長、これは・・・、毎年暑かったり、寒かったりの繰り返しがあるわけですが、短期間にきて、いま・・・、昔に比べて・・・。

そして、いま若干少しというか、何日間の中でもこれは7日か8日位あるわけですよ、30度以上が・・・。

その子どもたち・・・、課外授業、運動もやったりするときだってあると思うんですよ。そして、帰って来た時に、愛知では熱中症、外から帰ってきて亡くなったわけですが、本当にクールネックでいいのか。

町長、私らの時代は野球でも何でも運動していても運動中は水を飲むなんてそういう時代でしたけれども、今はちょっと違うんですよ。子どもたちは。

ですから、そういうことも考えてやって、例えば、父兄にアンケートをやれば、父兄はたぶんやると思います。でも、何にも動かなければ、なかなか・・・、行政におんぶにだっこというようなことで声を出さないのが実情ではないかと思うんです。そういう点を考えて、町長、やっぱり早い時期に、予算の関係もありますけれども、計画を立ててやるべきではないかと私は思っています。

そして、国会議員の中でも・・・議員団でも、賀茂地区なんかでは、今回7月の27日頃だったと思いますけれども、賀茂地区で国会に陳情にも行っているんですよ。松崎町は行かなかったんですよ、陳情に。

そして、その時に・・・、新聞もありますけれども、富士市ですね。小長井市長ですか・・・、陳情に行って、その中で・・・、国の制度というのは、3分の1位補助があるというように、耐震関係もありますからなかなかお金が回ってこないということも実情であるみたいですが、その中で、小長井市長ですか・・・、菅官房長官が小中学校へのエアコン設置に国が財政支援する考えを示したことに触れ・・・。

町長、なんか覚えがありますよね。菅官房長官という名前を聞くとピッとくるわけですが

れども、その時に町長が、町で一緒に行けば、菅さんが「なんだ、君が来たのか。それじゃあ、君を手ぶらで帰すわけにはいかないからすぐ手立てしよう」なんていうことも言ったかもしれませんよね。それは、町長、残念でありますけれどもね。

そういう点で前向きに、町長、考えてもらいたい。これは、今からアンケートというものありますけれども、その点は、どうでしょうか。町長。

○町長（長嶋精一君） 菅官房長官はそう単純ではないと思います。

まず、この問題は、静岡県で小中学校のエアコンの設置率が7.9パーセントという低位にあるという現実を知っていただきたいと思います。松崎町だけが低いということじゃありません。

それで、低いところは・・・、東京は100パーセントに近い、高いんですね。低いところは、北海道、東北、新潟、寒いところですよ。低いところは寒いところ、北陸、東北、その低い地域とわが静岡県は同じ位のレベルで低いということでもあります。

私は、教育の設備の件については、公平でなければいけないと前から思っております。そういうことは底辺に考えております。

そして、藤井議員が保冷剤のことを言いましたけれども、ぼくは今年のことです。いろいろな情報を集めていまして、保冷剤をやってなんとかその場をしのいでいるという学校があったよということを確認に話をしたことがあります。

したがって、それを来年も再来年もやろうじゃないかという意味では全くありません。いま暑くて30度以上ある学校に、何にも・・・、手をこまねいて何もしないわけにはいかないんですよ。おそらくその学校は何か知恵を絞って、せめて生徒の暑さをしのごうという窮余の策だと私は思います。私はそういうことを・・・、いま学校もやらなきゃいけない。それを役場も同一の目で見てもやらなきゃいけない。

対処療法というんじゃなくて、いまあることを手を差し伸べるという意味で保冷剤を挙げたわけですのでご理解ください。

それと、松崎小学校の場合、私も現場に行って校長先生と話をしました。曰く、松崎小学校では、エアコンを設置してもらいたいという声があがり上がってこないということなんです。というのは、非常に場所的に風通しがよくて、しかも廊下も広くて、非常に・・・、エアコンがないとどうしても困ってしまうということはないんですという現場の声があります。

中学校は、全く逆に・・・、非常に・・・、風も通らないし、ぜひとも来年には設置していた

だきたいという校長先生のお話がありました。

体力がもうかなりできている中学校に先にエアコンを設置して、小学校1年生とか、まだ幼稚園から上がってきたような子どもたちにいくら風通しがいいといたって、エアコンは再来年にしろ、それはあとにしろというわけには、私はどう考えてもいかないと思います。

これは、議員の皆さんともよく話をして、協議をして、来年どうするかということも私は考えてまいりたいと・・・、どうするかということは、前向きに考えていきたいと思います。

その前に、私ども方の財政の問題もあるので、いろいろやりながら、いろいろ統括課長とか、総務課長と議論し、また議員の皆さんに知恵を拝借しながら・・・、そのように思っています。

- 5番（藤井 要君） 前向きにということで、小学校はいらないとかって・・・、やっぱり現場の先生は町長とか、教育長のおえらい方が行くとなかなか言えないこともあると思いますので、本当に前向きに子どもたちのことを考えてやってもらいたいと・・・、先ほどちょっと言いましたけれども、これは高校の方は関係ありませんけれども、やっぱり西伊豆、松崎、高校にも暑いということはあるわけですから、県とか陳情の方もできればお願いしたいということで、この件は終わります。

次に、勤労者体育館の関係ですけれども、町長は行ったことがあるわけですね。トイレも見たということで、床の関係とか、トイレがやっぱり和式だとあそこでいろいろな・・・、ダンスがあったり、バレーやったり、バスケットをやったり、子どもたちの中でも不安であるということがあるので、今から検討していくということですが、町長、例えば、検討するんですけれども、優先順位があるということになれば、トイレとか床を例えば中学みたいに削って、平らにしたりとか、いろいろあると思うんですけれども、そこら辺はどう考えているのか。

- 教育委員会事務局長（山本 公君） ご指摘のトイレを和式から洋式に替える関係につきましては、小中学校については既にこれまで予算を付けて3分の2くらいが改修されているということになります。ただ、社会体育施設ですとか、観光施設の関係がまだまだ洋式化されていないことがありますので、その部分についてはやはり現在の状況は洋式を使っている方が多いわけですので、そういう部分に変換していかなければならないかなと思っています。

ただ、全てを一度にできるかということは、やはりできませんので、先ほど町長が申しま

したように、勤労者体育館のように避難所となっているような施設につきましては、そういう部分を先行させてやらせていただくとか、していくような形になるかと思えます。

また、床ですとか、ロッカーの問題がございましたけれども、当然業者の方に見ていただいたり、簡単に直るようなものであれば当然すぐ修理いたしますけれども、やはり当然工事をするということの中で大きなお金がかかるということになりますと、当然財政的な問題もありますので、そのあたりは考えながら対応させていただきたいと考えています。

○5番（藤井 要君） 課長の方から前向きな回答をいただきました。ありがとうございます。やっぱり一度にはできないということになれば、やっぱり利用者にも次はこういうふうになるんだ、来年度は床が貼り替えられるんだと・・・、そういう希望を持って利用者にも不安だけではなく、だんだんと行政、町も取り組んでくれると・・・、そういう点をみせてもらいたい。やっぱりそうしないと「町は何もやってくれない町だ」と言われることになっていきますので・・・。

ですから、私も・・・、先ほど課長・・・、ロッカーの関係も出ましたけれども、あのロッカーの鉄の・・・、スチールのやつじゃなくたって、幼稚園とか・・・、物を入れるああいうような方式だっていいよと・・・、そういうのも考えてくださいよということでしたから、そこは本当に手順を踏んでというか、決めて、やる年度、そういうのを決めてしっかりとやってください。お願いいたします。

町長、それに対して力強い・・・、やるというようなお言葉をいただきたいと思います、どうですか。

○町長（長嶋精一君） 役所では、検討するということはやらないという同義語だというふうに昔から民間企業にいた時は感じております。私は民間企業出身でございますので、検討すると言ったら検討する。本当にやりたいと思っています。

先ほど事務局長から話がありましたけれども、特に勤労者体育センターは避難場所になっているわけです。避難場所というのは、高齢者の方々も避難してくるということでございますので、和式ではなかなか難しいだろうと、洋式を極力やってもらいたいと思います。

小中学校についてもそういう意味で28年度から洋式にしたわけであります。

参考までに、学校の冷房はやっていないんですけれども、巡回扇については確か藤井議員が提案されて、それについて私どもは考えたという歴史があるんじゃないかなと思います。極力よい考えについては我われも実行してまいりたいと思っています。以上です。

○5番（藤井 要君） 民間の考えで、よろしくお願いします。

次に、少子化対策の関係ですけれども、先ほども言いました幼稚園が今年度全部で35名ですか・・・、入ったのが7名、そして、聖和保育園、私が調べた中では全部で65名でしたけれども、今日の話だと70名ということになっておりますけれども、これで、毎年毎年新生児が少なくなりますので、そうしますと、先ほど私は前に述べたことがあると言いましたけれども、5000人を割った町は幼稚園がないという事例もあるわけですよ。半数近くですよ。なぜかと考えると、これは働いている父兄の方とかがやっぱり預けるところ、自分が働いてお金を稼ぐというのになると、聖和保育園とか、そういうところに預けた方がいいということになると思うんですよ。2時でもう終わりですよと・・・。そういうことを考えると、少子化になってくる中で、松崎幼稚園も少なくなる。聖和保育園も少なくなる。本当に2年前の数字を比べたら10人位ずつ少なくなっていますよね。本当にこれは心配しなきゃならない。

そうしたときに、私は、例えば、認定こども園というのはいまできないわけですがけれども、そうした時には、松崎幼稚園は0歳から3歳までの子どもを預かって看ると、聖和は3歳から5歳とか、そういうすみ分けとか、それはバランスよくということになるんですけれども、そういうこともできないのかと考えているんですけれども、そこら辺の考えはどのように考えていますか。

○教育長（佐藤みつほ君） 藤井議員、いろいろ教育に関してご協力、ご支援ありがとうございます。

まず、幼稚園のことにつきまして、数年前から国の方から幼児アドバイザーという指導主事ですけれども、そこと振興センターの方、下田の方ですけれども、指導主事というか、大本が県から派遣された人が来て、いろいろ幼稚園を回って幼稚園の指導・・・、幼児教育がいかに大事かということについていま話があります。

その中で、松崎幼稚園を今後どのようにしようかという会合を度々開いております。その中でまず松崎幼稚園を特色ある園づくりをするためには「どういうところをあなたはやりたいか」、「私たちもやりたい」ということでお互いに意見交換をしています。

まずは幼稚園が魅力ある幼稚園でなければ、保護者も地域の方々もそこに集まりません。ですから、まったく小中学校の学校経営と同じように幼稚園も学校経営構想の中で、こんな幼稚園を目指したい。こんなふうにしたいということをまず訴えるだけの力を持ちましょう。そのことがまず園長先生をはじめ先生方に呼びかけ、では、どういう園づくりをしよう

か・・・。

いまお話があった預かり保育をすることも一つの方法だね。あるいは未習熟児、まだ小さい子どもたちに対していろいろ園活動を公開することも必要だね。そのためには、まず、町で掲げている防災教育、防犯教育あるいは危機管理能力を高めよう、そういうことの中で、早速8月の終わり、防災訓練に備えて園長を中心にしながら警察、私たち役場、教育委員会、あるいは小中の先生方にもちょっと応援に・・・、そんな形でみんなで何かを作り上げるという体制のもとで、そういうことをまず始めようということで早速始めました。

そういう活動がやがて園を魅力ある・・・、魅力化・・・、幼稚園の魅力化、小学校、中学校の魅力化、高校の魅力化、そしてみんなを惹きつけるために学校をどうするかということがまず1番だと思っています。

藤井議員がおっしゃるように預かり保育のことも無償化になった時にあなたたちはどうするか、7時まで預かっているのか。今の状態で2時半に帰すの・・・、当然そのところに魅力が・・・、親が見た時にどう感じるか、そんなところで局長と一緒にそんなことも呼びかけた経営というか、そういう会合もやっています。

そんな面でも議員の方々も気が付いたことがありましたら、やはり幼、小、中、高が一体になって町の施策に参加しながら、そしてみんなに広めていくことが大事かなと思っています。よろしく願いいたします。

○5番(藤井 要君) いま、教育長から聞きましたので、そういう魅力化づくりとか、やっぱり先ほど町長からもありましたけれども、聖和とのバランスもあるわけですよ。うまくやりながら、松崎のこれからの・・・、松崎町を担う子どもたちのためにやってもらいたいなと思います。

深くは時間の関係もありますので、次に進みますけれども、これは高校の関係ですけれども、先ほど広域連携の関係もいろいろあるわけですけれども、まだ私もインターネット等で県の方のをアクセスして見るわけですよ。なかなか具体的なことが出てきませんよね。

先ほど、今から具体的にということやっていくということですので、それは期待するわけですけれども、冒頭でも言いましたけれども、やっぱり町民というか、いま・・・、これから上がる人のためにもやっぱり松高はこういうふうに向性があるんだ、こういう方向でもっていききたいと存続をどうしても私たちは町の核である学校ということで、そういうことをやっぱり早く訴えてもらいたい。

そうしないと、いつまでも検討しています。検討しています。県のそういう下田の会合があってもなんかただ会合をやっているだけで目に見えてこないというのではなくて、はっきりと目に見えるような形・・・、ですから、大きなことじゃなくて、小さなことでもこれは1歩進みました。これをやることにしましたとか、そういうのをやってもらいたいということで、少ない時間になってきますので、また回答の方はできればお願いしたいと思いますけれども・・・。

○教育長（佐藤みつほ君）　ありがとうございます。

松崎高校の存続については、いろいろ会合があるわけですがけれども、特に、先ほどお話しましたように、今年度から違った方法でという松崎高校の・・・、あるいは県全体で行いはじめた教育課程というのがあるんですけれども、その教育課程の中で、ちょっと聞いたことがあると思いますけれど、地域の地域による地域のための教育課程というのが今年度から出されました。

それはどういうことをやるのかといいますと、地域の人々と一緒にやるということが地域に残る子どもたちをつくるということもあったり、町長がいつも話しているように、地域のことは地域の人々でとにかくやるということですかね。

防災なんかについては、松崎高校は今まで防災の指定校でした。その指定校を今度は地域に活かそう。早速町の防災係が松高に行って、地域に行って、地域でできることをやろう、じゃあ、高校生として何ができるか、そういうようなことを講話してくれましたけれども、そのようにやはり町長が掲げる施策に基づいたものを学校にも下してきて、そして、子どもたちも・・・、室のある子どもたちが一緒になってやる、先生たちも一緒になってやる。

ですから、現場のいろいろのエアコンのことについてもそうですけれども、現場の声を吸い上げるということがいかに大事かということと、それから、ちょっとエアコンのことですけれども、このあいだ、子どもの事故があって亡くなったということの関連ですけれども、そこはやっぱり医学的にみると、その前後に体の具合が悪いのが家庭であったというのが検証されています。

高校のことについては、そのように今年から地域に出て、地域としてどうするかというようなことが西豆学、要するに中高一貫教育の中の西豆学とともにがんばってやり始めました。

○5番（藤井 要君）　時間延長をお願いします。

○議長（土屋清武君） 5分延長します。

○5番（藤井 要君） なかなか解決策が見えてこないということもありますけれども、本当にやっぱり特殊ある学校みたいなことで松高生を引き寄せる先ほどの島根県の例もありますので、そういう前も説明もしましたけれども、いろいろ考えた中で早く、やっぱりスピーディにお願いしたいと思います。

それから、最後になりますけれども、買い物支援の関係ですけれども、先ほどこれは冒頭で継続してやるということになりましたから、なぜ継続したか、その理由を聞きたいということと、今までだと7月までに243名の登録があったと、私もちょっと若干調べさせてもらったら登録ナンバーが300くらいあるんですよ。これの関係がちょっと違いますけれども・・・、そして、利用が261名あったということで、承知しておりますけれども、これは、261回をやったという・・・、利用したということで、中身的には何人の方がこれを利用したのか、先ほど1か月で17回を使ったという方もおりましたけれども、私が調べた中では、この17回の方が4か月になりますと、52回くらい使っているんですよ。

そして、1回の方が4か月間・・・、町長、1回の方ですよ。その方が20名いましたね。私の中でですよ。町長。20名。2回の方が・・・、これは若干違うかもしれないけれども、12名、3回の方が6名、4回が7名、5回が4名、7回が5名、8回が1名、9回が1名、10回が4名、52回の方が1名でした。

町長、これを考えたら、20人の方は1回ということは、1回利用して・・・、どういうあれでしたのかね。どう考えますか。時間の関係もあるからあれですけれども、私はここでまとめて言いますけれども、そういうこともあるわけですよ。

そして、課長、これは内容検証をしていますか。例えば、これは1日2回ですよ。3回とか4回とか、そういう利用の方はありませんでしたか。

町長、そういうことを内容的にやっぱり・・・、私でしたら、そういう上がってきた疑問点があれば、その利用者に「どういう利用をしたんですか」とか、やっぱりそれは役場でチェックしなければおかしいと思いますよ。

ただ自由にフリーにこれを買い物支援といっても先ほど町長が言ったように、医療の病院に通うのが多いわけですよ。これは半数以上。これだってへたをすれば買い物支援じゃなくて、医療支援に名前を変えたっておかしくない、趣旨が・・・、全体的な趣旨がありますから一概に言えませんけれども、そういうことだってあるわけですよ。

ですから、継続して問題点・・・、これは時間の許す範囲の中でよろしいですので、課長か町長か・・・。

町長には1回が20人使っている。なぜこの人は1回・・・、その内容がわかればお願いします。

○健康福祉課長（新田徳彦君） 買い物等支援事業の今後・・・、なぜ継続をしたかということでございますけれども、この買い物等支援事業につきましては、買い物、通院そういった日常生活に不便がある方の支援をするということが目的でございます。

今回いろいろ4月から7月分の内容を見て、当初我われの方で想定していた予算に対しては少ないんですけれども、それなりにやっぱり役に立っているのかなと・・・。

それは、実際、これは委託している業者のドライバーさんに聞いたんですけども、利用者から評判がいいということ、それから、自分の知り合いなんかから聞いても「本当に助かっているよ」というような声がありました。

そういったことを総合的に勘案しまして、継続となった次第であります。

（藤井議員「チェックは・・・」と呼ぶ）

○健康福祉課長（新田徳彦君） チェックは当然実績に基づいてその中でどういう使われ方をしているかというようなことを我われは分析しましたけれども、ただ、議員が言われるように、1回の人々が月に20回分もいましたよというようなことですが、これをじゃあそれぞれ目的を聞いたかということになりますと、実際のところそこまでは、我われは聞いていません。

あくまでも今回この買い物等支援事業につきましては、なぜ“等”を付けたかという、実際利用される方は、買い物だけじゃないだろうと、ほかにも利用される方があるんじゃないかと、いろいろな用途にも使えるような形にしたという経過で買い物等ということにさせていただきました。

○議長（土屋清武君） 課長、時間がないから簡単に・・・。

○健康福祉課長（新田徳彦君） 一応そういったことでございます。

○5番（藤井 要君） 時間がなくて、私の方も申し訳ありませんでしたけれども、やっぱり課長、中身的に1日に2回というルールを逸脱している方もいるわけですよ。誰かは私もわかりません。

先ほど町長に言いましたように、4か月で1回使っている人が20名もいると・・・、皆さん

の大切な税金ですから、本当に必要な人にやっぱり利用してもらうような中身のある運営をお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（土屋清武君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時30分）

---

)